

森林文化アカデミービジョン2040【概要版】

1 経緯

- 1971年 岐阜県林業短期大学校開校
- 2001年 森林文化アカデミー開学
- 2015年 「岐阜県立森林文化アカデミー改革私案」
- 2025年 「森林文化アカデミービジョン2040」

2 これまでのアカデミー改革

- 将来に通じ、産業界のニーズに適合した教育の骨組み
 - ・専修教育部門改革（指導的役割の人材、経済性の高い生産を担う技術者の育成）
 - ・専門技術者教育部門設置（林業、木造建築における専門的人材への再教育）
 - ・ロッテンブルク林業大学との連携（学生交流、日独シンポジウム、morinos建築等）
- 産業界・県民との連携
 - ・生涯教育部門設置（森林総合教育センター（morinos）開所）
 - ・森林技術開発・普及コンソーシアム設置（会員企業115社、100名の新卒者が就職）
 - ・市町村・企業・大学など国内における連携（1森林管理署、7市町、2企業、1大学）

3 これからのアカデミーの方向

森林空間の価値を広く知らしめるとともに、時代がどのように変化しようとも社会課題の解決策を自然のフィルターを通して探ることができる（NbS的な解）人材を育成

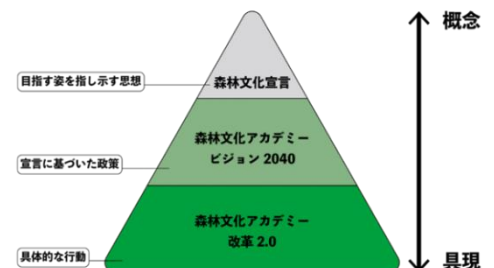
※NbS（Nature-based Solutions）：国際自然保護連合（IUCN）と欧州委員会が定義した概念

4 森林文化宣言（抄）

森林を”科学（Science）”と”文化（Culture）”の両面から捉え、林材のみならず、空間・環境に至るまでの経済価値を含めた多面的価値を探求し、それを用いて社会課題の解決に寄与することを「FbS（Forest-based Solutions）」と呼び、森林県に存在する教育・学術・技能技術の開発応用の機関として、そうした命題に取り組み、これを県民のウェルビーイングな未来に投影し、且つその成果を岐阜県から国内外に、広く共有し普及を目指すことを宣言します。

5 森林文化アカデミービジョン2040

- ① F b Sを実践できる人材を育成する。
- ② 「森林文化」によるF b Sの研究・開発・実践・普及を行う。
- ③ 「森林文化」は時代と共に進化する。



6 森林文化アカデミー改革2.0

1. 森林・林業分野
 - (1) 高度架線技術者カリキュラムの新設
 - (2) 獣害対策カリキュラムの新設 など
2. 森林環境教育分野
 - (1) 里山キャンパスプロジェクト実習
 - (2) 地域里山フィールドの発掘
3. 木造建築分野
 - (1) 校舎を活用した温熱・省エネ改修を実践する授業の実施
 - (2) 非住宅木造建築物等に対応する木造開放試験室の再整備
4. 木工分野
 - (1) コンパクトな製材・乾燥・加工モデルの構築
 - (2) 鍛冶職人等と連携した道具教育の実施